

論点②

個別検診機関のがん検診チェックリスト調査結果について

青森県がん・生活習慣病対策課

2025(令和7)年12月15日

1. 個別検診機関のがん検診チェックリスト調査結果について

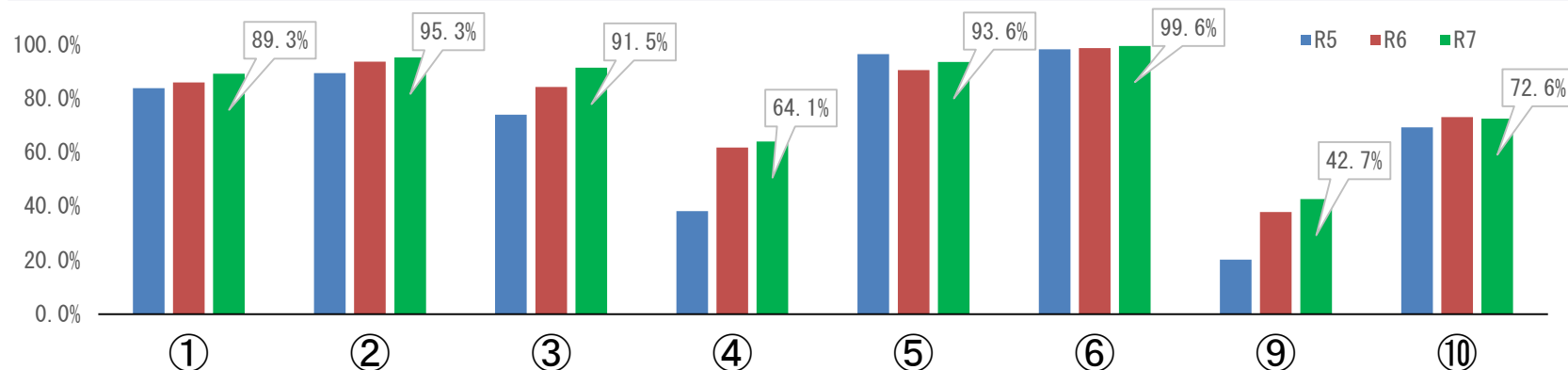
- 調査対象 令和7年度に市町村からがんの個別検診を受託している309医療機関
- 調査期間 令和7年9月2日～令和7年10月3日
- 回収率 74.8%(231医療機関から回答)
- 特記事項 二重読影の実施状況を「全がん」から「各がん」について確認する項目とした

<チェックリスト項目>

項	目
1 「青森県におけるがん検診事業の実施に関する要綱」について、ご覧になりましたか。	6 検査結果は、少なくとも 5年間は保存 していますか。
2 がん検診の際、検査のほかに 問診も実施していますか。	7 【胃がん検診(内視鏡)のみ実施している場合は、回答不要です】 検診に伴う読影や検体の検査は、どこで行っていますか。
3 がん検診を実施する際の問診において、検診の対象とする臓器のがんが疑われる 症状があった場合 は、検診は実施せず、診療の対象であることを説明したうえで、 診療を実施していますか。 ※がんが疑われる 症状がある方のがん検診受診は不適切 です。	8 【胃がん検診(エックス線)、胃がん検診(内視鏡)、肺がん検診、乳がん検診のうち、1つ以上実施している場合にご回答ください】 読影は必ず二重読影により実施していますか。
4 検診の対象とする臓器について、定期通院中のがん、もしくはがんではないが 診療の対象となる所見がある患者の経過観察として、がん検診を実施していますか。 (例：潰瘍性大腸炎の患者に対する便潜血検査…等) ※定期通院中のがん、もしくはがんではないが診療の対象となる所見がある患者の経過観察としてのがん検診は不適切です。	9 自施設のプロセス指標 (要精検率・精検受診率・がん発見率・陽性反応適中度)について、直近(調査年度の1～2年前の)数値を 把握していますか。
5 がん検診を実施する前に、「がん検診の結果、要精密検査となった場合は、 必ず精密検査を受ける必要があること 」を 説明していますか。	10 今後、県や医師会、弘前大学等のがん検診に係る講習会等を実施することがあれば参加してみたいですか。

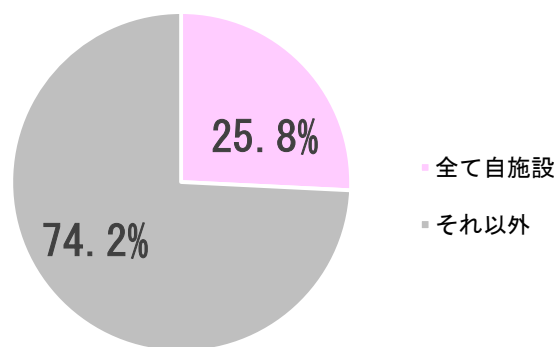
1. 個別検診機関のがん検診チェックリスト調査結果について

(1) 各項目の遵守率(設問7、8を除く)



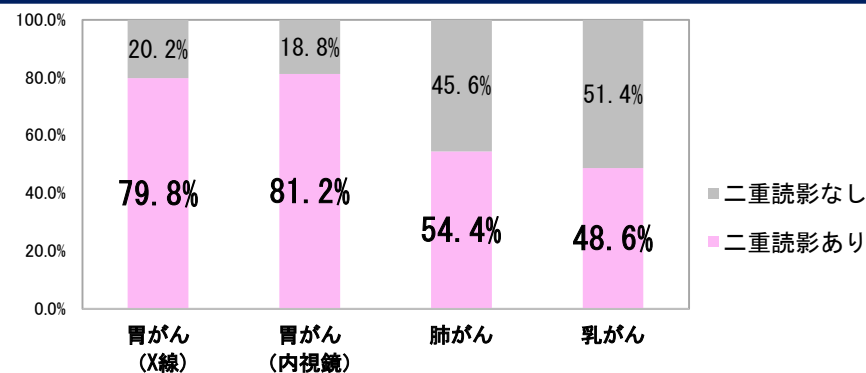
○各設問ともにチェックリストの実施率は向上している。
 ○他の項目と比較して、「④患者の経過観察としてがん検診を実施していない」「⑨自施設のプロセス指標を把握している」の項目の実施率が低い。

(2) 設問7「検査・読影の実施場所」



○すべて自施設で実施していたのは約1/4で、多くは外部に読影や検体検査を依頼している。

(3) 設問8各がん「二重読影」の実施状況



○胃がんにおいては80%程度、肺がん・乳がんについては約半数で二重読影が行われていた。

2. 個別検診機関に対する「がん検診精度管理調査票」による調査について

調査結果のまとめ

- ・ チェックリスト調査の回収率（実施率）は70%台で推移している。
- ・ 各項目の実施率は向上している。⇒各個別検診機関の意識向上に繋がっている。
- ・ 他の項目と比較して、「④患者の経過観察としてがん検診を実施していない」「⑨自施設のプロセス指標を把握している」の項目の実施率が低い。⇒特に④については、診療で見えるべき患者を、がん検診として取り扱っている医療機関が一定数あることを表しており、プロセス指標等のデータにも影響するものである。
- ・ 二重読影については、がん種によって実施率に差が見られた。

今後の方針

- ・ 現在は、「がん検診精度管理調査票（検診機関用）」を基に、10項目に絞って調査しているが、遵守すべき項目の認識共有及び課題の焦点化のため、今後は、上記調査票を用いて、精度管理の全項目について自己点検が可能となる体制づくりが重要と思料される。
- ・ 一方、回答項目が多く、回答には一定の負担が生じることから、まずは事務職員等の補助体制が整っていると想定される病院を対象に実施することを検討したい。（診療所は従来通り簡易版での調査を継続）
- ・ 病院を対象に「がん検診精度管理調査票（検診機関用）」を実施することについて、関係機関と検討するとともに、医療機関向けの研修会等により、要綱の浸透を図ることで、科学的根拠に基づくがん検診を推進していくこととしたい。